令和５年３月３１日

出雲市議会議長　様

会派名　平成　クラブ

代表者氏名　長廻利行

視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、報告します。

１．日　　程	令和５年３月２８日　～　平成５年３月３０日（３日間）
２．視察研修先 視察研修目的	・３月２９日 午前 10：00　～　12：00 インバウンド・アウトバウンド研修　(観光庁) 講師　観光庁総務課課長補佐　岡田良子氏 午後２：00～4：00 島根県選出国会議員要望活動（衆議院・参議院議員会館） ・３月３０日　午前 10：00　～　11：00 島根県アンテナショップ・「日比谷しまね館」見学 （東京メトロ千代田線日比谷駅前）
３．参　加　者	長廻利行　宮本　享　西村　亮 保科孝充　今岡久人　計５名

出雲市議会
05.3.31
第602号
受付

4．所　　感	**・インバウンド・アウトバウンド研修** 出雲市出身の岡田良子課長補佐から「インバウンド・アウトバウンド」について次の研修会を受けた。 1　コロナ禍による観光への影響 2　観光の今後の方向性 3　観光地域づくりについて ・先駆的 DMO づくり ・　日本人の、国内旅行者数はコロナ禍前の 2019 年 58,710 万人、コロナ禍では 2021 年 26,821 万人、旅行消費額では 2019 年 219,312 億円・2021 年 91,835 億円と半減以上の落ち込みであった。 インバウンドでは、消費額 2019 年 4.8 兆円・2021 年 0.1 兆円となっている。感染拡大前インバウンド目標では、2020 年 4000 万人 2019 年実績 3,188 万人が 2021 年 25 万人と大幅な減少であった。 今後の持続可能な観光として、自然文化の保全と観光の両立、宿の改修等観光地・観光産業の再生と高付加価値化を進める。高付加価値なインバウンドの誘致、第 2 のふるさとづくり（継続した来訪の促進）などがあげられる。 観光地域づくり法人（DMO）の形成確立では、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりの司令塔となる法人を支援する。DMO では、観光データの収集・分析、観光地域づくりの戦略の立案、関係者との合意形成を担い、市と地域の関係者を巻き込んだ体制を、観光庁でも支援していく。出雲市関係の DMO は、「中海・宍道湖・大山圏域観光局・山陰まんなか観光局（松江市玉湯町）」「山陰観光連盟・山陰インバウンド機構（米子市 JR 西日本山陰営業所）」が該当すると思われる。2 つの法人は、広域的な取り組みであり一般住民にとってはわかりにくくて、なじみが薄いと感じる。この組織の

	中だけではなく、それぞれの県・市町村で独自に進めている事業もあり、出雲市においてもチャーター便の新設・友好都市の連携等単独の動き・働きかけの必要があると感じた。 ・ **島根県選出国会議員要望活動** 島根県選出の国会議員に衆議院会館・参議院会館の各事務所を訪問し、次の要望活動をした ・中海・宍道湖・大山圏域８の字ルート、高規格道路境港出雲道路の整備について ・国道９号出雲バイパス全線と「からさで大橋４車線化」の早期整備について ・山陰道　斐川ＩＣ～出雲ＩＣ間へのスマートインターチェンジの整備について ・出雲南部幹線道路（旧出雲～斐川）の整備について ・ **島根県アンテナショップ・日比谷しまね館見学（日比谷駅前）** 日比谷駅前の「日比谷シャンテ」の地下１階にある「日比谷しまね館」を見学した。のどぐろ・出雲そば・出西生姜・出雲生姜・出西窯・清酒等出雲市内業者の出品物も多く嬉しく感じた。 島根県の情報コーナー・観光案内コーナーもあり、力の入れようを感じた。 ただ地下にあるということもあり、多少不便さ・入りにくさを感じるのではないかと思えた。

令和５年３月１７日

出雲市議会議長　様

会派名　平成クラブ

会長　長廻利行

議員研修・国会議員への要望活動について（届）

このことについて、下記により実施致しますので届け出ます。

令和５年３月２８日　～　令和５年３月３０日（３日間）

・３月２９日（水）

研修　午前　・インバウンド・アウトバウンド研修

講師　観光庁職員

午後　・中海・宍道湖・大山圏域８の字ルート、高規格道路境港出雲道路に関する研修

講師　国土交通省職員

・３月３０日（木）

午前　青木一彦参議院議員他島根県選出議員への要望活動

・中海・宍道湖・大山圏域８の字ルート、高規格道路境港出雲道路の整備について

・国道９号出雲バイパス全線と「からさで大橋４車線化」の早期整備について

・山陰道　斐川ＩＣ～出雲ＩＣ間へのスマートインターチェンジの整備について

・出雲南部幹線道路（旧出雲～斐川）の整備について

長廻利行　宮本　享　西村　亮

保科孝充　今岡久人　計５名

３月２８日　１６：１５出雲空港発　１７：４５羽田空港着

２９日　午前・午後 研修

３月３０日　１４：１５羽田空港発　１５：４０出雲空港着

３０日　午前 要望活動

出雲市議会
05.3.17
第565号
受付

令和４年11月15日

出雲市議会議長　様

会　派　名　平成クラブ

代表者氏名　長廻　利行

（署名又は記名押印）

視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

１．日　　程	令和４年10月24日　～令和４年10月25日（２日間）	
２．視察研修先 視察研修目的	豊岡市	希少水鳥野生復帰先進視察
３．参　加　者	長廻利行　１名	
４．添付書類	１．行程表 ２．報告書	

出雲市議会
04.11.15
第604号
受付

（所　感）

豊岡市内では、コウノトリをモチーフとした看板やオブジェが随所にあふれ、コウノトリがプリントされたラッピング・バスが走行するなど、市民生活にコウノトリが深く定着していた。

豊岡市がここまで「コウノトリ化」した背景として、実際にコウノトリの放鳥が行われ、身近な場所に飛来したという事実が市民のマインドに変化をもたらしたということであった。市民は、自然下でコウノトリを目撃してはじめて、それまで当たり前のものと考えていた湿地に大きな価値を見いだし、コウノトリの環境整備に自ら参画していこうという意識が醸成されたということである。

おそらく、豊岡市においても、最初からコウノトリのために自ら手間をかけて環境整備を進めようとする人はほとんど皆無だったのではないか。それは農業生産者においても同様であり、いくら売価が上がるといっても進んで無農薬や減農薬に取り組もうとする人も、かつてはそこまで多くはなかったと思う。それがコウノトリの放鳥を契機として、実際に自分たちの生活エリアにコウノトリが飛来したのを目撃したことで、コウノトリの価値、そしてコウノトリが生息する湿地や水田の価値に気付いたのではないか。

もちろん、市が進めようとする環境整備は“後からでよい”ということではない。トキを放鳥しても生息していける最低限のポテンシャルが確認されなければ、トキを放鳥することはできない。それゆえに、冬期のエサ場確保や営巣木保全については、出雲市においても早急な対策が求められると思う。

出雲市でトキが放鳥され、出雲市の水田や湿地にトキが飛来する時、市民の感情にどのような変化が起こるか。豊岡市の事例を見る限り、それはきっとポジティヴな変化であると思われてならない。その変化をいかに具体的なアクションに誘導するかは、行政的な問題であり、トキの放鳥後を見据えた長期的なプランニングが必要な部分でもある。

トキの野生復帰を巡っては、トキを放鳥するために何をすべきか、という点に焦点が当たりがちであるが、市民や農業生産者にとっては「放鳥をしたあと」の方がずっと重要だ

し、それは当のトキたちにとってもそうであろう。豊岡市に行くことで、そのことに改めて思い至った。

令和４年10月13日

出雲市議会議長　様

会　派　名　平成クラブ

代表者氏名　長廻　利行

（署名又は記名押印）

視察研修について（届）

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

１．日　　程	令和４年10月24日　～　令和４年10月25日（２日間）	
２．視察研修先及び視察研修目的	豊岡市	希少水鳥野生復帰先進視察
３．参加者	長廻利行　１名	
４．添付書類	行程表（別紙）	

出雲市議会
04.10.13
第603号
受付

希少水鳥野生復帰先進地視察（兵庫県豊岡市）　行程表

時間	内容	備考
1日目【10月24日（月）】		
7:45頃	出雲市役所第２駐車場　集合	※出発前に費用を徴収します。
8:00	出雲市役所　発	
12:00	豊岡市　着	
12:00-13:00	昼食	
13:00-13:30	＜移動＞昼食会場 → ハチゴロウの戸島湿地	
13:30-14:40 (70分)	○豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地　現場視察 ○コウノトリの生息環境整備に関する説明 ・コウノトリ野生復帰の取組みについて　等 （豊岡市コウノトリ共生課、日本コウノトリの会）	
14:40-15:00	＜移動＞ ハチゴロウの戸島湿地 → ククヒ湿地	
15:00-16:00 (60分)	○ククヒ湿地（水田ビオトープ）　現地視察 ○水田ビオトープに関する説明 （水田ビオトープ保全管理作業員　宮村氏）	
16:00-16:15	＜移動＞ ククヒ湿地 → 宿泊先（豊岡ｸﾞﾘｰﾝﾎﾃﾙﾓｰﾘｽ）	
16:15	チェックイン	
2日目【10月25日（火）】		
8:45	チェックアウト、宿泊先　発	※ホテルにて朝食
8:45-9:00	＜移動＞　宿泊先　→　豊岡市立コウノトリ文化館	
9:00-10:30 (90分)	○取組説明 ・コウノトリ育む農法、「コウノトリ育むお米」について （豊岡市農林水産課、兵庫県豊岡農業改良普及ｾﾝﾀｰ）	
10:30-11:15 (45分)	○施設見学 豊岡市立コウノトリ文化館、コウノトリ本舗	
11:15-12:00	＜移動＞ 豊岡市立コウノトリ文化館 → 昼食会場（出石）	
12:00-13:00	昼食	
13:00-13:30	＜移動＞ 昼食会場（出石）　→ 市立加陽水辺公園	
13:30-14:30 (60分)	○市立加陽水辺公園、加陽湿地　現場視察 ・市立加陽水辺公園に関する説明（豊岡市ｺｳﾉﾄﾘ共生課） ・加陽湿地に関する説明（国交省豊岡河川国道事務所）	
14:30	豊岡市　発	
19:00頃	出雲市役所　着（解散）	

※上記行程について、前回ご案内させていただいたものから、先方の都合等により、若干の変更がございました。ご了承ください。

令和４年８月３０日

出雲市議会議長　様

会派名　平成クラブ

会長　長廻利行

国会議員への要望活動・スマートインター研修について（報告）

このことについて、下記により実施しましたので届け出ます。

１．日　　程	令和４年８月２６日（金曜日）～27日（土）
２．視察研修先及び目的	・８月２６日 研　　修　スマートICの制度について 午後２：００～３：００　参議院議員会館 講師　国土交通省道路局高速道路課 高速道路課・事業調整官　依田秀則 要望活動　午後３：００～５：：００　衆議院・参議院議員会館 青木・高見・舞立・三浦・細田・たかがい各事務所 ・出雲地域がトキの野生復帰に向けて共生を目指す里地に選定されたことに伴う国の支援について ・山陰道・斐川IC～出雲IC間へのスマート・インターチェンジ設置に向けての支援につい ・からさで大橋４車線化の早期実現と出雲・斐川の交通網の整備について
３．参加者	長廻利行　宮本享 保科孝充　今岡久人 計　４　名

出雲市議会
04.8.30
受付 242 号

4．所感	・　研修　　スマートICの制度について 国土交通省道路局高速道路課・依田秀則調整官からスマートICの最近に制度内容について詳しく説明を受けた。　国土交通省道では、平成１６年度から日本のインターチェンジの平均間隔１０K を、平地部につては欧米諸国と同水準の５kmに改善することを念頭に置きつつ、高速道路活動の有効活用や地域活性化を図るため、従来より低コストで整備できる ETC 専用のインターチェンジの整備を推進しているとされた。 約10年前に市議会においてこの課題について取り組んだが、その当時は高額な整備費（40億円～60億円以上）を出雲市が負担する必要があるとの市当局の説明であり、費用対効果の面で断念した。 今回の説明では、条件が整えば国から55パーセントの補助金が出る見込みもあるとのことで、参加者一同、依田調整官の説明に勇気づけられた。高速道路本線からスマートインターへ通じるまでの道路部分は国が1／２補助、料金徴収施設は会社（ネクスコ）が100%負担、既設の一般道路から料金徴収施設までは自治体負担など,制度は刻々変更するので自治体は日頃からよく注視する必要がある。 整備するにあたっては、まず自治体での検討から始まるが、当初から国土交通省中国整備局（広島)、松江国道事務所、ネクスコ、と密接な協議を行いながら、一方で、議会はもとより地域住民の合意が必要であり、入念なICの必要性の検討・調整を図ることが重要であるとのことであった。 整備効果として挙げられるのは、新しい物事が動く（ICができる）という意味合いにおいて、企業立地、物流施設（ターミナル）の整備、観光産業の発展、農産物販売・カフェの顧客来店のためあるいは都会地への輸送アクセスの利便性などをあげられた。 印象に残ったのは三浦議員から、「石見部から島根大学医学部あるいは県立中央病院への救急患者搬送、病気で通院する場合に、相当の時間がかかるのでスマート IC ができれば石見地域にとっても必要」と話された言葉だった。

令和４年８月１８日

出雲市議会議長　様

会派名　平成クラブ

会長　長廻利行

議員研修・国会議員への要望活動について（届）

このことについて、下記により実施致しますので届け出ます。

１．日　　程	令和４年８月２６日　～　令和４年８月２７日（２日間）
２．視察研修先及び目的	・８月２６日（金） 午後　研修　国土交通省スマートインター担当職員 ・山陰道、スマート・インターチェンジについて 研修終了後 青木一彦参議院議員他島根県選出議員への要望活動 ・出雲地域がトキの野生復帰に向けて、共生を目指す里地に選定されたことに伴う国の支援ついて ・山陰道　斐川ＩＣ～出雲ＩＣ間へのスマートインターチェンジ設置に向けての支援について ・からさで大橋４車線化の早期実現と出雲・斐川の交通網の整備について
３．参加者	長廻利行　宮本　享 保科孝充　今岡久人　計４名
４．行　程	８月２６日　９：２０出雲空港発　１０：４５羽田空港着 午後　研修　要望活動 ８月２７日　１４：１５羽田空港発　１５：３５出雲空港着

出雲市議会
04.8.18
議26号
受付